

心ふれあう

ちょっといい話

おかやまのちょっといい話

シリーズ 21

※チラシは偶数月の第一日曜日に皆様にお届けしています。過去のシリーズはアーバンホールのホームページでもご覧いただけます。

家族の絆、双子の不思議

私には双子の姉がいます。一卵性 双子児ですから、小さいころから本 当にそっくりでした。好きな食べ物 も、テストで間違う問題までそっくり。申し合わせてないのに同じ服を着ていたり。双子ならではの不思議な感覚です。

姉は県外に嫁いたので、お盆と正月に親族と顔をあわせる程度です。二年前、お正月に帰省していた姉とちよつとした意見の食い違いから大ゲンカしてしまいました。

物は言い様といいますが、昔から姉は一言も二言も多いタイプでいつもイライラしていたのが、大爆発したというところでしょうか。それからというものの偶然かどうかわかりませんが、帰省する日付もずれるようになってしまいました。

「お姉ちゃんが交通事故して入院したのよ」「え？大丈夫？右足怪我したんじゃないの？」という母は、「どうして知ってるの？右足骨折して入院したのよ」と。

実はその日の昼前から私の右足が不思議と痛く、熱かったのです。以前にもそういうことがあったので、やはりそうかと思いました。

さらに事故をしたのが昼前だと聞いて、改めて双子の不思議を感じた出来事でした。

それからというもの。母と姉の友人四人でこれまでのケンカなんてまるでなかったかのように色々話をしました。私の心の中のモヤモヤも一気に晴れていった気がしました。きっと姉も同じ気持ちだったのではないのでしょうか。大阪の友人の方がとても明るい方で、それみたいへんありがたかったです。

そして母が言っつのです。「あなたたちは二人で一人なのよ。本当はわかってるくせに。あなたたちは小さいころから性格こそ違えど、好き嫌いも考えることもそっくりなんだから仲良くしなさい」と。五十も近くなつて子供のように叱られました。親子、兄弟、はたまた双子っていいのはいいもんだと想う一日となりました。



あなたのアーバンホール

アーバンホール

葬儀・法要・ギフト

垣根は相手がつくっているのではなく、自分がつくっている。 アリストテレス

なにか問題が起きたときそれは相手のせいでしょうか。双子の姉妹でもわかりあえない時があるのです。自分に垣根がないか冷静になることも必要です。ふと垣根が外れたとき相手はすぐ向こうにいるかもしれません。

皆様の「心ふれあう おかやまのちょっといい話」をお寄せください。ご応募いただいた優秀な作品はアーバンホールのホームページ上・チラシなどにてご紹介させていただきます。ご意見・ご感想もお待ちしています。またご応募いただいた方全員にささやかながら粗品を進呈させていただきます。◆応募先/アーバンホール「ちょっといい話」係 〒710-0841 倉敷市堀南805-1◆記入事項/①住所②氏名③電話番号④年齢⑤エピソードご応募の方は1200文字程度(原稿用紙・ワープロいずれも可)にてお願い致します。尚、作品の返却はありません。